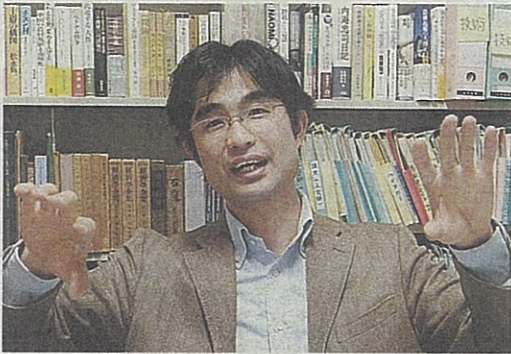


# 安保法 忘れない

## 京大有志の声明、響き合おう

### 施行2カ月

安全保障関連法が施行されてから2カ月が過ぎた。昨年の夏、議論が深まらないうまま成立を急ぐ政権に疑問を投げかけた「自由と平和のための京大有志の会」の声明書。成立後につづられた二つ目のメッセージへの共感が今、じわりと広がっている。



藤原辰史さん＝京都市左京区

「自由と平和のための京大有志の会」は安保法が国会で審議されていた昨年7月、11人の教員と学生グループが集まって立ち上げられた。「戦争の愚かさや平和、自由の大切さについて『市民目線』で考えていければ」。こう考えた藤原辰史さん(39)＝人文科学研究所准教授＝が草稿を書いたのが「戦争は、防衛を名目に始まる」で書き出した声明書＝表①＝だった。

声明書はインターネットや口コミで広がっていき、賛同する人たちが急増。フェイスブックで賛意を示す「いいね!」は最大3万件に達した。背景には、憲法学者らから「集団的自衛権の行使を認める安保法案は憲法違反」との指摘を受けながら、成立に向けて突き進む安倍政権への不満や疑念があった。

だが、安保法は声明書が

できてから約2カ月後の昨年9月19日に成立した。あきらめてはいけない――。京大有志の会はその日のうちに、藤原さんが草案をまとめた「あしたのための声明書」＝表②＝をホームページで公開した。

「わたしたちは、忘れない」から始まる二つ目の声明書に対し、「電車の中で読み始めたら、大泣きしうになった」「すでに一つの心打つ作品」といった感想が次々と寄せられた。東京大名教授で社会学者の上野千鶴子さん(67)もツイッターで「これもよい」と評価。フェイスブックの「いいね!」は2600件に上り、今年に入ってからも各地の集会で朗読されているという。

新たな声明書は英訳されたほか、「わたしは、わすれないぞ ひとはなしをちゃんと きかないでむりやり おかしなまみりをつくられたおとなを」な

どと分かりやすい言葉に言い換えた「こども訳」も作られた。

「いまの政権のやり方に怒り、あきれている市民の思いが沸々とたまっていると感じます」と言う藤原さ

ん。これからも、こうした思いを共有していきたいと考えている。

京大有志の会は声明書のほかにも「忘れない」ための取り組みを続けている。市民に開放した勉強会「ひろば」では、哲学者の故・鶴見俊輔さんの著作を読みながら政治について意見を交わしたり、戦争体験者の

話を聞いたり。「声のステーション」と名付けた試みでは、集会参加者らのメッセージを集め、ホームページやツイッターで紹介している。(小河雅臣)